

災害

災害とは、洪水や土砂崩れ、地震、台風接近という出来事ではなく、その出来事により、人的な被害、社会生活に被害がでた状態のことを言うそうです。非常時の対策はもちろんですが、常時できることから防災を考えることが必要といわれています。



DISASTER

日頃から 「災害に備えて」 できること。

平成30年は、北陸地方の豪雪、草津白根山の火山、鳥取県西部地震、大分県中津市の土砂崩れ、大阪北地震、西日本豪雨、繰り返す大きな台風上陸、北海道胆振東部地震など、例年にも増して大きな災害が起きました。(参考:内閣府WEBページ)

3つのコミュニケーションが大事！ (地震イツモノートを参考に作成)

① 家族

家族と日ごろから会話を。
いざというときは
家族の協力は大きな助けになります。

身近な対策は
「ご縁」をつないでおくこと！

日頃から「知っている」
「知ってもらっている」ことが大事！

② 近隣

いつも挨拶をするなど
ご近所とのお付き合いを。
顔を知っていることが大切です。

③ 地域

スポーツや地域の集まり交流を。
励ましあったり、協力しあうなど
困った時の大きな力になります。

他にも、避難所までの道を調べておくなど「地域のことを知ること」や「非常持ち出し物の確認」などは、日頃から心がけておきたいですね。

院長の認知症コラム 認知症の人は、人と人との関わりの変化や、生活環境の変化についていきにくいという特徴があります。避難所や仮設住宅など、非日常の環境に置かれることを余儀なくされる災害時は、心身ともにコンディションを保つことが難しくなる可能性が高まります。可能な限り、顔なじみ「認知症と災害」の関係で環境づくりをすることが、認知症の人の安心に繋がっていきます。